

## スマホの停電対策

JJ1SXA/池

「天災は忘れたころにやってくる」という警句を残したのは、地球物理学で随筆家の寺田寅彦だ、現代は、「天災は忘れない内にやってくる」と言っても過言ではないのでは無いか。

「南海トラフ巨大地震」や「富士山大噴火」などといった大災害は脇においても、自然災害は、何時この身に降りかかってもおかしくない、日本列島は「災害常習列島」だと何方かが何処かに書いていた。

一旦災害に見舞われると色々大変だが、停電も困る、長期にわたり復旧しない場合、照明や冷蔵庫等も大変だが、スマホのバッテリー切れも心配だ、今や、スマホは重要なライフライン、家族や友人との連絡手段であり、被災時は状況を把握するための情報ツールとしても欠かせない。

では、長期の停電時にどうやってスマホのバッテリーを持たせるかだが、まずは、節電設定だ、日常では、使い勝手を犠牲にした節電設定は必要ないだろうが、非常時では、利便性よりもバッテリーの節約が優先だ、次に示すのは効果ある節電設定の項目だが、節電効果の高い順に列挙したものだ。

「機内モードをオン」、「低電力(省電力)モードオン」、「画面の明るさを最低に」、「位置情報サービスをオフ」、「自動同期をオフ」、「ダークモードをオン」、「画面のタイムアウト時を短く」、「明るさの自動調節をオフ」、「高リフレッシュモードをオフ」、「アプリ通知をオフ」、「常時表示機能をオフ」、「音やバイブレーションをオフ」、「自動で点灯する機能をオフ」、以上を表(チェックリスト)にして、印刷し、手元に置くべきだ。

以上のような設定はかなり効果があるようだが、欠点は、電話、メール、Line等の連絡手段が使えなくなる、非常時だからこそ常に連絡が取れるようにしておきたいというものもあるが、電話は、留守番電話サービスや災害用伝言ダイヤル(171番)もあるし、メールやLineは一時的に通信機能を有効にすればメッセージを受け取れるので問題は無いだろう、何時来るかわからないアプリやブラウザでの情報収集も同様で、何時来るかわからない連絡やずっと使い続けるわけでも無いアプリの為に通信機能を常時オンにするのは、バッテリー消費の面から言えば勿体ない、電気復旧のメドが立たない場合必要に応じて一時的に通信機能を有効にしてメッセージ確認や情報収集をする方がベターだ、次は色々な充電方法だ、停電が長引けばスマホの節電をしてもいずれバッテリーは尽きる、一番はモバイルバッテリーだが、その他にも方法がある、身近なところではノートパソコン、最近の物は電源を切ってUSB端子からスマホに給電出来る、対応しているか調べておく必要がある、次は別のスマホだ、停電が長引くなら、使うのは一つに絞った方が良い、車のシガーソケットに挿して使えるUSB充電器、小型のソーラーパネルもスマホの充電用にあると便利だ。

(2025年5月記)